

テーマ

子どもの安心の基地になるために

適用分野

子育て支援、臨床心理学、発達心理学、人格心理学



研究名称

アタッチメントに基づく親子関係支援

氏名所属

北川 恵 教授
文学部 人間科学科

内容

●研究内容

・アタッチメント（attachment）とは、人の基本的欲求の一つである。一者では調整できない恐れを、二者関係において調整しようとするものである。特にストレスへの対処能力が限られている乳児においては、危機・不安に際して、自分より強くて大きな大人への近接（アタッチ）し、安全・安心を得る必要性が頻繁に高まる。

・発達心理学の縦断研究（Sroufe et al., 2005など）を通して、乳幼児期に養育者との間で健全なアタッチメント（必要な時に安全と安心を与えてもらえる関係性）をもてることが、その後の人格発達やメンタルヘルスに長期的で重要な影響を及ぼすことが明らかになった。また、健全なアタッチメント形成に必要な養育者の特徴として、子どもからのシグナルに早く適切に応答できる「敏感性」や、子どもの視点に立って子どもの気持ちに思いをはせる「内省機能」がかかわることも明らかになった。

・そのため、欧米では、子どものアタッチメント健全化を目指して、養育者を対象に、敏感性や内省

機能を高める介入がいくつか開発された。そのなかの1つとして世界乳幼児精神保健領域から注目されており、かつ、エビデンスがあるものとして、the Circle of Security (COS) program (Hoffman et al., 2006) がある。また、その簡易版ともいえるthe Circle of Security Parenting (COS-P) program (Cooper et al., 2009) が開発されており、その日本語版（「安心感の輪」子育てプログラム）を筆者たちは作成した（北川・安藤・松浦・岩本、2013）。

・甲南大学人間科学研究所では、2009年度から、日本で初めてCOSプログラムを地域の親子対象に実施している。2013年度からは、「安心感の輪」子育てプログラムもあわせて実施している。大学で行う地域貢献、教育、研究のそれぞれを発展させてきた。学生や大学院生の有志が課外活動として、プログラム中の託児室に入り、子どもたちと触れ合う経験を重ねてきた。また、科研費を受けての効果研究も行っており、今後も研究を継続発展させる予定である。その結果を広く発信していきたい。

キーワード

アタッチメント、親子関係支援、「安心感の輪」子育てプログラム

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究